

# ホールセール事業部門

執行役副社長  
ホールセール事業部門長  
成田 学



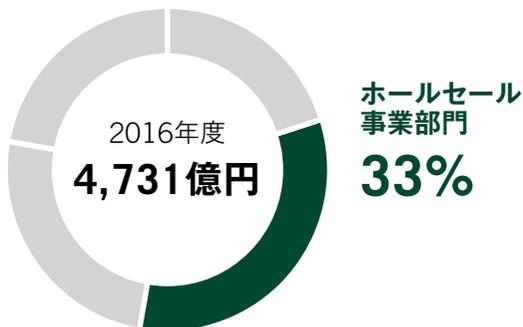
## 事業部門の概略

国内の大企業および中堅企業のお客さまに対し、資金調達、運用、リスクヘッジ、決済等に関連したサービスに加え、M&Aやアドバイザリー、リース等お客さまの幅広いニーズに対応する金融ソリューションを提供しています。

### 強み

- お客さまのニーズを具体化、案件化し、金融ソリューションとして提供するまでの「スピード」
- 創意工夫を凝らし、新たな業務・商品開発に取り組み、お客さまと共に成長するという志としての「チャレンジ精神」
- 高い営業力を有したフロント組織と様々な専門性を備えた本部組織が有機的に連携することにより生み出される「現場力」

### 連結業務純益に占める割合



### 主な事業会社

事業会社	事業内容
三井住友銀行	国内・東アジア地区の本邦法人への銀行取引推進
SMBC信託銀行	仲介、アセットマネジメント、コンサルティング等の不動産関連業務
三井住友ファイナンス&リース	国内法人顧客に対するリース取引の推進
SMBC日興証券	国内大企業や金融法人等への証券取引の推進

## 中期経営計画

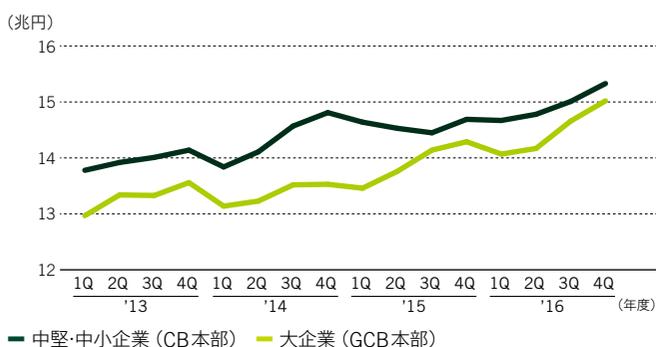
### 事業環境・課題認識

ホールセールビジネスに関する足許の事業環境は、世界的な経済成長率の鈍化や、我が国の緩和的な金融政策の継続等により、難しい舵取りが求められています。

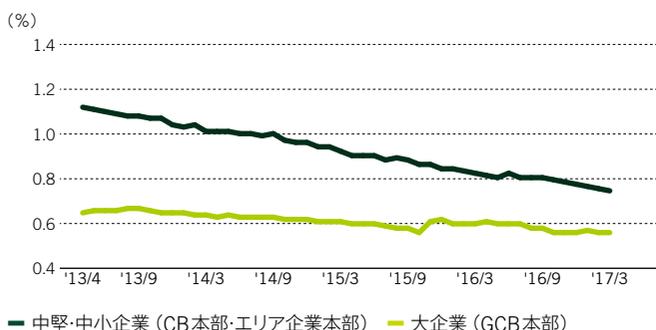
このような中で、前中期経営計画期間においては、大企業のお客さまのクロスボーダー等の買収ファイナンスへの対応や、中堅・中小企業のお客さま一社一社としっかりと向き合う「One to One」での事業承継への対応等により、貸金残高は増加トレンドを持続しました。

一方で、マイナス金利政策の継続や他行との競争激化の影響により、貸出金スプレッドは現在も低下トレンドが続いています。

貸出金残高(三井住友銀行) \*1,2



貸出金スプレッド(三井住友銀行) \*1,5



\*1 内部管理ベース。政府等向けを除く。14年度より管理区分を変更。13年度実績は、見直し後の管理区分に基づき算出  
 \*2 四半期平残  
 \*3 ホールセール部門+所管会社+協働収益  
 \*4 アセット関連収益：預貸金等に付随する金利収益、フロー収益：手数料等の非金利収益  
 \*5 月次、ストックベース

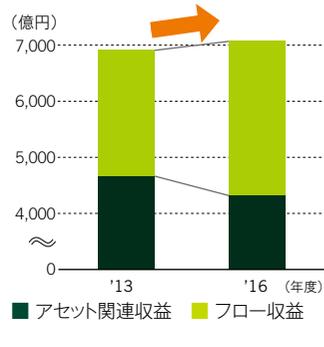
### 基本方針・目指す方向性

ホールセール事業部門では、中期経営計画期間において、「お客さまと共に成長し、日本経済の発展に貢献する」という基本方針を定めています。多様化するお客さまの事業戦略や経営課題に対して、事業内容や成長ステージに合わせたきめ細かなソリューションを提供していきます。

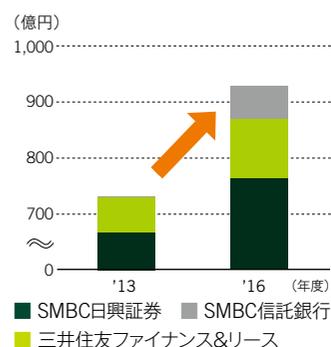
お客さまにとって付加価値の高いソリューションを通じて、多様なニーズにお応えしていくことで、お客さまと共に成長することを目指します。

また、事業部門制の導入を通じて、SMFGベースでの連携を活かし、お客さまへの多面的なアプローチを行い、SMFG一体となったサービス提供を一層進めていきます。

業務粗利益(三井住友銀行) \*3,4



協働収益(三井住友銀行)



リーダテーブル(2016年4月~2017年3月) \*6

	順位	シェア
株式関連(ブックランナー、引受金額) *7,8	2位	19.0%
円債総合(主幹事、引受金額) *7,9	3位	17.2%
ファイナンシャル・アドバイザー(M&A、案件数) *7,10	2位	4.5%
IPO(主幹事、案件数) *11	4位	16.5%

\*6 株式関連、円債総合はSMBC日興証券、ファイナンシャル・アドバイザーはSMFG  
 \*7 出所：トムソンロイターの情報をもとにSMBC日興証券が作成  
 \*8 日本企業関連、海外拠点を含む  
 \*9 事業債、財投機関債・地方債(主幹事方式)、サムライ債  
 \*10 日本企業関連公表案件、グループ合算  
 \*11 REITのIPOを除く、海外拠点を含む。出所：トムソンロイター

# ホールセール事業部門

## 重点戦略

### 内外大企業ビジネスにおけるプレゼンス拡大

グローバルでダイナミックな企業活動を展開している大企業のお客さまに対しては、SMFG各社の総力を結集し、従来に比べて一步踏み込んだ協働体制を構築します。Team SMFGとして、お客さまの企業価値向上に向けたソリューションを提供し、お客さま満足度の向上およびSMFGのプレゼンスの拡大を目指します。

また、さらなる国内外におけるG-CIB\*モデルの深化を通じた銀証・内外でのアプローチにより、SMFG一体での収益極大化を進めていきます。

\* G-CIB : Global-Corporate and Investment Banking

### 本邦中堅企業マーケットにおける優位性拡大

強みのある中堅企業マーケットにおいて、お客さまの成長ステージに応じて様々なソリューション提供を行うことにより好循環を創出し、優位性の拡大を目指します。

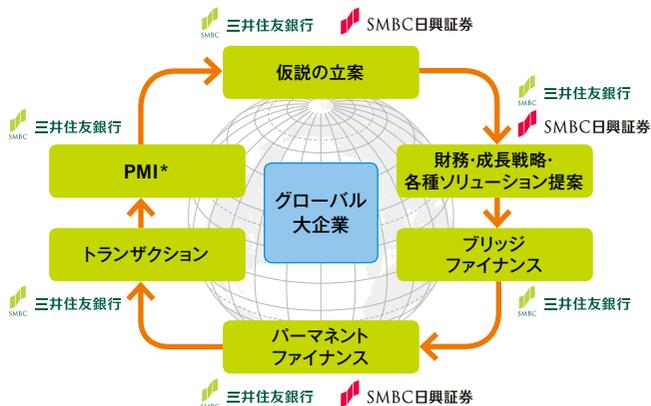
「ベンチャー・成長産業支援」、「プライベートバンキングアプローチ」、「企業価値向上（プライベートエクイティファンドとの連携）」等の注力分野を定め、SMFG一体で多面的なソリューション提供を行い、安定的な収益への貢献を実現するとともに、生産性・効率性における優位性の維持・強化を図ります。

### 主要な経営指標 (KPI) と高い効率性の維持

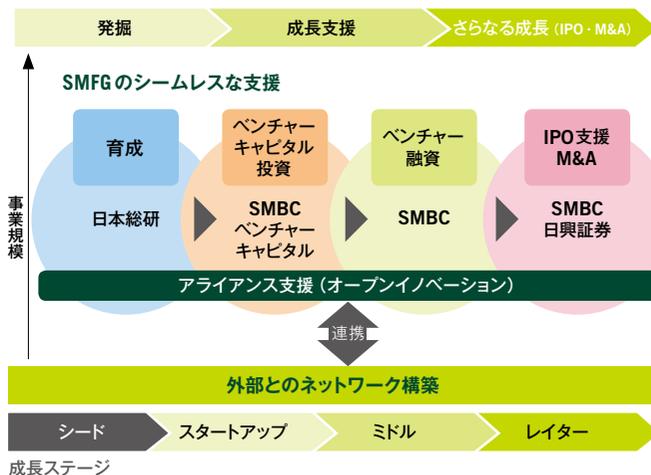
ホールセール事業部門では、「内外大企業ビジネスにおけるプレゼンス拡大」と「本邦中堅企業マーケットにおける優位性拡大」という2つの事業戦略に合わせて、事業債主幹事シェアやIPO主幹事件数等のKPIを設定しています。ホールセール事業部門を構成する各社のさらなる連携、一体運営によるビジネスの強化に注力していきます。

また、ホールセール事業部門の強みのひとつである高い効率性を維持した上で、健全なリスクテイクとクレジットコストのコントロールを通じて、収益性の向上を図っていきます。

### クロスボーダー M&A案件



\* PMI (Post Merger Integration) : M&A成立後の統合プロセス



主要なKPI	2019年度計画	2016年度比
事業債主幹事シェア	20.0%	+2.6%
IPO主幹事件数	1位	4位→1位
M&Aアドバイザー一件数	1位	2位→1位

高い効率性の維持	2019年度計画	2016年度比
業務粗利益*	7,950億円	+270億円
業務純益*	4,800億円	+150億円
ROE	10%	→

\* 2016年度比は金利・為替影響等調整後

## 2016年度の振り返り

2016年度は、2014年度にスタートした国内業務改革の3年目であり、前中期経営計画の最終年度の仕上げとなる重要な節目として、部門一丸となって取り組みました。1年を振り返ると、世界的な経済成長率の鈍化や我が国の緩和的な金融政策の継続等、先行きが見通しづらい環境の中、競争の激化に伴い、預貸金関連収益が減少となりましたが、三井住友

銀行とSMBC日興証券等との連携による手数料ビジネスの拡大により、結果として連結粗利益は7,756億円、連結業務純益は4,731億円となりました\*。

\* 2016年度の収益管理制度に基づき、2017年度からの事業部門ベースに組み換えた暫定値

### Topics

#### 海外進出への支援

三井住友銀行では、セミナーの開催等により、世界経済動向と為替相場、各国の投資環境等に関する情報を提供しています。海外進出を検討されているお客さまには、検討の入口段階からお話しさせていただき、各国の法規制や日系企業の進出動向等、テラーメイドの情報提供を行っています。また、すでに海外展開されているお客さまについては、事業拡大や再編等のニーズに対し、国内外関連部門と協働した質の高いソリューションの提供を行っています。さらに、貿易取引に関する各種アドバイスや実務セミナーを通じて、お客さまの外国為替取引全般に対するサポートを実施しています。



為替相場見通しとグローバル経済の  
現況セミナー

トランプ政権の経済・通商政策セミナー

#### 創業・新規事業開拓、成長企業への支援

ベンチャー企業に対しては、SMBCベンチャーキャピタルによる投資、三井住友銀行による融資、SMBC日興証券による株式公開支援等、お客さまの成長ステージに沿ってシームレスな支援を行っています。また、ベンチャー企業と大企業のアライアンスニーズも高まっており、「未来オープンイノベーションミートアップ」や、異業種コンソーシアム「III(トリプルアイ)」主催のアクセラレーションプログラム「未来2017」等、各種イベントを開催しました。加えて、外

部ベンチャーキャピタルや大学、研究機関等との連携も積極的に進めており、日本における「ベンチャーエコシステム」構築に向けて活動しています。



未来オープンイノベーション  
ミートアップ

未来2017

#### 三井住友銀行とSMBC日興証券との協働連携

法人のお客さまの幅広い金融ニーズにワンストップで迅速に対応するため、三井住友銀行とSMBC日興証券の営業部門の一部で銀証兼職組織を設置しています。2016年度には、従来の兼職組織である三井住友銀行の本店営業第九部とSMBC日興証券の第八事業法人部に加えて、本店営業第八部と第九事業法人部、本店営業第十一部と第十事業法人部が新たに兼職組織となりました。銀証兼職にあたっては、堅固な法令順守態勢の下、三井住友銀行とSMBC日興証券の連携をより一層深化させ、法人のお客さまの多様なニーズに対して、最適な金融サービスの提供に努めていきます。

